ごぞんじですか？　第120回
saveMLAKとCOVID-19：しなやかに動きつづけるプロジェクト

森　いづみ・子安　伸枝（saveMLAK COVID-19 libdataチーム）

1.　はじめに

saveMLAKは2011年３月、東日本大震災をきっかけに発足したプロジェクトです。被災したM（博物館・美術館）L（図書館）A（アーカイブ・文書館）K（公民館）機関（以下、「MLAK機関」）の情報を集め、発信することで、必要な支援につなげていくことを目的としています。情報収集は有志のプロジェクト参加者が行っています。

本稿では、２章、３章でCOVID-19流行期（2020年４月～７月）にsaveMLAKが行った２つの活動について述べます。４章では５月に発表した「呼びかけ」（「災害への『しなやかな強さ』を持つMLAK機関をつくる」）を紹介し、５章で今後の展望について述べたいと思います。

2.　covid-19-survey

2.1　株式会社カーリルによる全国調査

saveMLAKが全国の公立図書館・公民館図書室等（以下、「公立図書館等」）の動向調査に着手する前に、４月８日から９日にかけて株式会社カーリル（以下、「カーリル」）が全国の公立図書館等を対象とした動向調査を実施しました[1)]。この時点で、公立図書館等の休館率は46%でした。調査結果の公表を受け、４月12日にsaveMLAKのオンラインミーティングでCOVID-19の対応が話し合われました。そこで、公立図書館等の調査を継続的に行うことで動向をスナップショットとして記録していくことが提案され、調査はカーリルからsaveMLAKに引き継がれることになりました。

2.2　saveMLAKによる動向調査

saveMLAKでは、４月15日から８月１日までの間に、８回の調査を行いました[2)]。saveMLAKの活動はプロジェクト制のため、この調査についても、SNS等を使って告知し、参加者を募りました（図１）。

図１　告知用のチラシ（第９回用）

調査方法は公立図書館等や自治体のウェブサイトを目視で確認し、対応状況を記録するというものです。日本全国から延べ255人が参加し、延べ14,831館を調査しました。調査の実施状況は表１の通りです。

COVID-19の流行期ということもあり、調査をオンラインで完結できるようにしました。参加者同士の連絡手段としてSlackというメッセージアプリを使い、進捗状況を報告し、疑問点があったらどんどん投げかけられるようにしました。また、調査結果はGoogleスプレッドシートに集約しました。全国の自治体数は1,700以上あり、ウェブサイトを確認するだけでも相当な時間がかかりますし、情報が上書きされるケースもあります。そこで、確認したページは調査のエビデンスとして後からでも参照できるようInternet ArchiveやArchive todayといったウェブページの保存サービスを活用してアーカイブしました。

毎回調査結果をまとめたプレスリリースを作成し、図書館関係のメーリングリストやSNS等で周

知を図りました。プレスリリースの作成も、オンライン会議用アプリZoomを使って打合せしながらGoogleDocsを共同編集するというオンラインで完結できる方法を取りました。

この調査手法は、COVID-19だけでなく今後の災害調査にも役立つと思いますし、図書館以外の機関の動向を調べるにも有効です。

回	調査期間	日数	参加人数	対象館数
1	4月8日・9日	2	−	1,409
2	4月15日・16日	2	39人	1,549
3	4月22日・23日	2	31人	1,626
4	5月5日・6日	2	38人	1,692
5	5月15日・16日	2	38人	1,696
6	5月20日・21日	2	31人	1,708
7	6月4日～6日	3	28人	1,715
8	6月18日～20日	3	26人	1,718
9	7月29日～8月1日	4	24人	1,718
	合　計	22	255人	14,831

表1　調査の実施状況

2.3　調査結果から

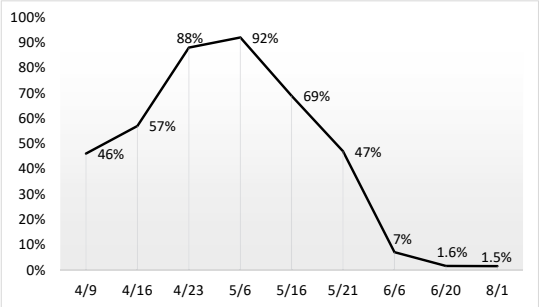

図2　休館率の推移

図2は公立図書館等の休館率の推移です。5月4日には、92%が休館することとなりました。休館率の推移に伴い、サービスの状況にも変化が見られます(図3)。予約受取だけを実施する公立図書館等が増え、利用時間の短縮のため、セット貸出を行う図書館も見られました。少数ですが、普段行っていない図書館が郵送貸出を実施するケースも見られました。電子リソースは電子書籍・デジタルアーカイブを含めていますが、ウェブサイト上のお知らせ等から増加は見られませんでした。

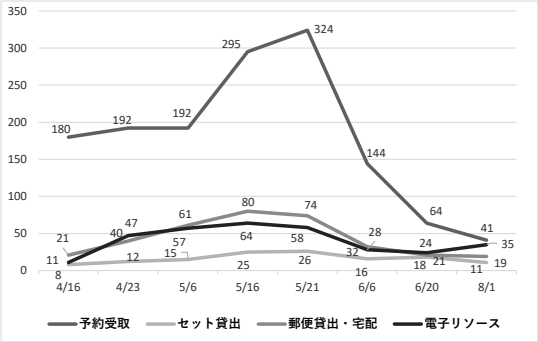

図3　サービスの推移

2.4　国立大学図書館、専門図書館の動向調査

公立図書館等の動向調査と並行して、独自に国立大学図書館の調査を行っている方からの打診があり、この調査結果もsaveMLAKのウェブサイトに掲載されることになりました。2人のチームによる調査結果が毎週末に更新されています[2)]。

また、専門図書館についても有志によって動向調査が始まり、現在までに行われた2回の調査結果も同様にsaveMLAKのウェブサイトに掲載されています。専門図書館は全国に1000館とも2000館とも言われていますが、公開されている300館を調査しています。

3.　COVID-19対応のベストプラクティス共有

動向調査は、サービスを類型化し、まとめて表に記載する「テーブル志向」の調査です。多人数による一斉の分担調査や集計の容易さというメリットがありますが、類型化により情報がそぎ落とされてしまうことがあります。一方、saveMLAKでは、もともと各図書館の状況をWikiのページに記録していく「ドキュメント志向」の情報収集を行っていました。特徴的なサービスを取り上げ自由に記述できるメリットがあり、両者は相互補完的な関係にあります[3)]。「COVID-19対応のベストプラクティス共有」のページでは、全国のMLAK機関がCOVID-19対応として取り組んでいる事例

を収集し、まとめています[4]。例えば、美術館・博物館では「おうちミュージアム」、「自宅でミュージアム」、「エア博物館」等の名称で、ウェブサイトから利用できるコンテンツを提供した事例が挙げられています。また、図書館等ではYouTubeチャンネルを用いた配信や塗り絵の提供、休校中の学習に役立つオンラインコンテンツの紹介などが事例として挙げられています。公立図書館等の動向調査で見つけた取組みをSlackに共有することで、事例が豊富になっていくという効果もありました。

4. 呼びかけ

4.1 「呼びかけ」を出すことにしたきっかけ

「呼びかけ」[5]は、COVID-19感染拡大で甚大な影響を受けている社会において、MLAK機関が持つ重要な役割をいかに果たしていくのかを考えるための「論点」を整理したものです。「呼びかけ」を出すことにしたきっかけを３つ紹介します。

一つ目は、日本新聞博物館長へのインタビュー記事（４月９日）[6]です。２月末にスポーツや文化イベントの開催自粛、学校への休校要請が出され、「不要不急」という言葉が話題になりました。「施設に足を運ぶ価値」や「文化事業の必要性」を、どのように訴えるのか。「これまでの役割と、挑戦するべき取組の整理」は、MLAK機関全体へ突き付けられた課題だったと言えるでしょう。

二つ目は、緊急事態宣言が全国に出された直後、４月19日の新聞記事[7]です。シリア内戦下、若者たちが地下に作った「秘密の図書館」を紹介し、「『知る権利』や心の自由を保障」するはずの図書館が相次いで休館する状況を憂える内容でした[8]。

三つ目は、社会科学系の若手研究者を中心とする「図書館休館対策プロジェクト」[9]です。図書館の休館等によって研究活動が困難になった研究者のため、代替的支援施策を求めることを目的として設立され、「図書館休館による研究への影響についての緊急アンケート」の結果を公表したほか、各図書館協会や国立国会図書館、政府機関等に対する要望書、回答を公開しています。

こうした状況が、MLAK機関の関係者のモチベーション低下、社会からのMLAK機関に対する期待感の喪失、利用する側と提供する側の対立・分断を引き起こしてしまうのではないかという危惧から、saveMLAKで何らかのメッセージが出せないか、検討することになりました。

4.2 作成方針と内容

４月23日のオンラインミーティングでは、「誰を対象にするか」、「何を働きかけたいのか」、「どのような内容を盛り込むか」が議論されました。COVID-19は人類にとって未知のウイルスであり、状況が刻々と変化する中で「正しい」メッセージを出すのは困難であること。メッセージ自体が新たな分断を生み出すおそれがあるという現状認識もありました。そこで、以下の方針を立てました。

- COVID-19を広い意味での災害と捉え、あくまでも人命第一であることを明記する
- 主語を「私たち」とし、賛同する人がどのような立場でも署名できる形式とする
- 具体的な課題と解決策を「論点」として示す
- 公開後も改訂でき、誰もが提案・参画できることとする

「論点」では、COVID-19で明らかになった課題を「1. 研究活動の停滞・科学政策への影響」、「2. 将来世代の人生への影響」、「3. 市民の知的インフラの欠如」という３つの事項にまとめています。また、解決策として「1. 安全な来館利用の再開」、「2. 非来館利用の促進」、「3. ２分法を超える融合」という３つの観点を示しました。「知的インフラを充実させる」ために、「情報・知識やMLAK機関の利用者・提供者・生産者が一体となって議論し行動する」ことを促し、「実空間と情報空間が融合した未来のMLAK機関の理想を追求する」ことを呼びかけている点が、特筆すべきことと言えるでしょう。

saveMLAKプロジェクトリーダーの岡本真氏が草稿を作成し、５月21日のオンラインミーティングを経て、５月25日に第１版を公開しました。８月半ば時点で36名が署名し、現在も署名・意見を

受け付けています。検討プロセスから派生的に、大学図書館を中心とする「オープンアクセスリポジトリ推進協会」や、長野県内のMLA機関による「信州 知の連携フォーラム」からのメッセージにもつながりました[5)]。

5. 今後に向けて

saveMLAKの活動は、多くのメディアで取り上げられました。「動向調査」で公立図書館等の休館率が明確に示せたことで、COVID-19の社会生活へのインパクトを象徴する事例となりました。「ベストプラクティスの共有」は、MLAK関係者をエンカレッジする効果があり、「呼びかけ」とともに、図書館等の文化施設の重要性が再認識されるきっかけになりました[10)]。

saveMLAKの特色は、有事の際に迅速かつ柔軟に対応できる、普段からの備えがあることです。発足から10年近くにわたり、定期的なミーティングや災害時の情報共有といった主体的な活動が継続され、Wikiのサーバが維持・更新されていること。多様なバックグラウンドを持つ人々が、個人のスタンスで関わり、緩やかなコミュニティが形成されていること。活動の手段がネットワーク上でデジタライズされて、スキルアップが図られていることなどが、強みとなっています[11)]。

専門図書館の動向調査 のプレスリリースでは、その多様性等から調査が困難で、全体像の把握には至らなかった経緯が述べられました。一方、専門図書館協議会は、オンライン会議で「日本全国の専門図書館を繋ぎ、現場の生の声を伝える」という試みを７月21日に実施しています[12)]。

COVID-19に限らず、MLAK機関を取り巻く状況は厳しさを増す一方ですが、個々の機関の情報発信と、ネットワークを介した情報共有が、「しなやかな強さ」の実現に向けた、第一歩になるのではないでしょうか。

参考文献（参照は全て2020-8-22）

1）カーリル. “COVID-19：多くの図書館が閉館しています” .https://blog.calil.jp/2020/04/stay-at-home.html

2）saveMLAK. “covid-19 survey”. https://savemlak.jp/wiki/covid-19-survey

3）常川真央. “ICTツールを活用した，COVID-19の影響による図書館の動向調査の取り組み”. 2020-06-21. https://drive.google.com/file/d/1zuPba5XnWFe0jPFJmq7MEk4qPO8W6G8I/view

4）saveMLAK. “COVID-19”. https://savemlak.jp/wiki/COVID-19

5）saveMLAK. “災害への『しなやかな強さ』を持つMLAK機関をつくる”. 2020-05-25. https://savemlak.jp/wiki/CallForResilience

6）奥山晶二郎. “「不要不急」と言われた博物館長の胸の内「社会のおまけじゃない」問いかける「ものを考える場所」の必要性”. 2020-04-09. https://withnews.jp/article/f0200409001qq000000000000000W00810101qq000020857A

7）「どんな本が好きですか？」シェークスピアを愛する青年は「ハムレット」と答えた…. 信濃毎日新聞. 2020-04-19.

8）森いづみ他. ウイズコロナ時代の公共図書館を模索する：県立長野図書館の取り組み. 図書館雑誌. 2020, 114(9), 491-494.

9）図書館休館対策プロジェクト. https://closedlibrarycovid.wixsite.com/website

10）（社説）コロナと図書館：「知る権利」守る工夫を. 朝日新聞. 2020-06-21. https://www.asahi.com/articles/DA3S14520714.html

11）黒田隆明. “新型コロナ後、「図書館×まちづくり」の在り方が問われる”. 新・公民連携最前線 2020-07-10. https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434148/070600077/

12）専門図書館協議会. “「オンライン会議第１弾～ Zoomで繋がる専門図書館～」開催のお知らせ”. 2020-07-21. https://jsla.or.jp/2020-07-21_online-meeting/

（もり　いづみ、こやす　のぶえ）